



シネマネキ



2011年11月 第5号
(抜粋版)

cinemaneki

子どものいない3人にとっては、赤ちゃんの記録に興味深々。知らないことを知ることができる、ドキュメンタリーの魅力についても語っています。

よね

蔵でやるんだ。

ひぐ

そうそう。行ったことあるけれど、お宅の庭にある、こじんまりした蔵。大きい16ミリ映写機が一台あって、定期的に上映会をやっているんだよ。

しぶ

蔵って壁が厚くて窓が少なくて、暗いイメージ。上映する環境には向いてるかもね。

ひぐ

〈ちいさな試写会〉は文京区が所蔵する16ミリフィルムを全部見ようという企画で、毎回数本を取り上げているんだよね。

よね

今回のラインナップが、なかなかすごいんだよね。〈幼児〉と〈古墳〉。

しぶ

たしかに。『幼児の感情と心』は、むかし家庭科の授業で観たのと同じ感じかな？泣いたらどんな感情の表れた、とか…。赤ちゃんが泣いたり笑ったりした映像の記憶があるな。

ひぐ

でも、たぶん幼児教育ってかなり最近の学問だよね。だから昔は解説とかが存在しなかったんじゃない？もちろん親は、感覚的にわかっていただろうけれどね。

よね

たしかに世界で最初の映像の中には、赤ちゃんの様子を収めたものもあるね。記録に残せるようになって、それが研究に繋がったのかな？

しぶ

核家族化とか、多くの女性が働くようになって、お母さん達が苦しんでるっていう状況も、問題になってきたからかな。

よね

でも一方で、学問として今まで曖昧にしていた部分を結論づけてしまうと、逆に苦しくなることもありそうだよな。

ひぐ

たしかに難しいね。今までは、「ま、いっか」と言えたこともあるかもしれないね。

よね

〈習慣づけ〉っていうのは、躾のこととか扱っているのかな。お母さんが見ていたとはあんまり思えないから、保育者とか研究者向けなのかな。

しぶ

さっきの忠臣蔵じゃないけれど、古墳好きもいるよね。歴史と旅行を楽しむ感じかな。

ひぐ

図書館とか公共施設で所蔵されているものは、教育や歴史に関するものも多くて面白いよね。
。

よね

娯楽映画は他では見られるけれど、こういう内容のものはなかなか手に入らないからね。

しぶ

赤ちゃんの映像はモノクロだけど、古墳はカラー！その辺りも面白いね。

ひぐ

たぶん、この上映会ではライブラリーのナンバー順に上映していると思うんだ。だからこの後の〈ちいさな試写会〉は、古墳の次にどんなのが繋がるのか、予想するのも楽しいかも。毎月やっているし、お菓子を会場で売ったりしているから、気軽に行けて面白いよ。

よね

蔵だから、これからの季節は防寒をしっかりと行かないとね。

[文京映像史料館〈ちいさな試写会〉](#)

『アトムの足音が聞こえる』

『鉄腕アトム』を全編観たことのない世代の3人ですが、映画と漫画や小説の違いについて、また現代人の未来像など、話はどんどん膨らんでいきます。

ひぐ

私は前に海辺で上映する作品もあるって聞いて、最初にCINEMA AMIGO*1を知ったんだ。

よね

へー、気持ち良さそうだね。逗子のサーファーが行くのかな。

しぶ

ハハハ、でもここはカフェなんだよね。ほぼ毎日上映しているし、一日何回もやっているのがすごいなあ。

ひぐ

毎月いろいろなジャンルの映画を上映しているから、今回のシネマネキではどれを取り上げようか迷ったよね。

よね

〈映画を観ながら食事の出来るシネマカフェ〉というコンセプトだね。

しぶ

『アトムの足音が聞こえる』は、去年の作品か。

よね

『鉄腕アトム』のアニメで音響デザインをした大野松雄を追ったドキュメンタリーだね。手塚治虫とぶつかることも多かったみたいだけど...

しぶ

EXPOのパビリオン空間音響システムを担当したみたい。どっちも近未来を音で表現する仕事だね。よく考えると不思議な仕事。

よね

映画音楽はアナログでもかなり色々な道具や手法を使って、様々な音を作り出している歴史があって、音楽家はある種の創り手のような感じなのかもね。

ひぐ

でも漫画って、文字で擬音語が書いてあったりするよね。

よね

うんうん。ということは漫画家は音に関してもはっきりとしたイメージがあるってことだよな。小説では、そこまで擬音語を指定していないけれど。

ひぐ

だから、手塚さんと大野さんはぶつかったのかな。

よね

シネマネキの漫画家としては、どうですか？

しぶ

そうだね、絵で描くところと、文字で書くところは自然と決まってくるよね。でも文字は、台詞とは確実に違うんだな。

よね

その時って、自分の中で音がなっているから書くんでしょ？

しぶ

そうね、自分の中でだけ...だけれどね。でもそれと全く違う音が鳴ったら、衝突しちゃうかも....。

よね

11月19日には、監督とミュージシャンのライブもあるって書いてある。

ひぐ

監督！なにするんだろうねえ。気になるな。

しぶ

紹介文に〈音楽にも造詣が深い〉って書いてあるから、何か楽器ができるのかな？

ひぐ

そういえばアトムアニメ、ちゃんと観たことないな。

よね

私たちの親世代が全盛期だよね。

しぶ

裸にブーツっていうのに驚いたけれど、いまでも全く古くない良いデザインというか絵だよね。

よね

それに今となっては〈アトム〉や〈ウラン〉という名前に、色々考えさせられるよね。原子力で動くロボットという設定もね。

ひぐ

アトムの時代設定は、21世紀のまさに今だよね。

よね

『2001年宇宙の旅』も過ぎ去ってしまったし。

しぶ

私たちはさ、未来っていったらチューブが張り巡らされていたり、車が宙を飛んだり。そういうビジュアルを想像していたじゃない？今の子どもたちにとって、未来の絵はどんな感じなんだろう。

ひぐ

自然豊かな感じじゃない？もうメタルな感じじゃないよね。

『アトム足音が聞こえる』

〈ひぐ〉が働く川口メディアセブンで定期的に行われている、お母さんのための上映会。今回は上映作品も〈母〉の物語。女性の生き方について色々と考えさせられた3人でした。

しぶ

ペドロ・アモドバル監督？初めて聞いた。

ひぐ

スペインの監督だね。気丈に生きる女性を描くことが多いかな。

よね

そうだね。この人が撮るペネロペ・クルスは本当にきれいだよね。でもかなり残酷なシーンがあったりするけれど、それを親子向けの上映会でやるっていうのはすごいなあ。

ひぐ

そうだね。でも残酷なだけじゃないし、主人公と母親の関係性が描かれていたり、色々考えさせられるから良いかな...と。劇中でペネロペ・クルス演じる主人公が歌を唄うシーンがあって、それも印象的だし。

よね

ペネロペ・クルスに捧ぐ物語って、感じだよね。

しぶ

スペインは強い女が多いのかな？

よね

でも、男の人が主人公なのは少ないかも...。スペイン映画自体があんまり日本に入っていないから何ともいえないけれど。

ひぐ

映画の中でも赤とか黄色とか、はっきりした色彩が目立つよね。

よね

そうだね。スペインのファッションブランドが好きな人にはお勧め。

しぶ

2000年前後の作品にしては、どれも少し懐かしさがあるテーマを撮る監督だね。

よね

そうだね。家族とか恋人とか、基本的な人間関係を描く人だと思うな。

しぶ

アニメ以外の映画を子ども連れて観れるって言うのは、お母さん嬉しいかもね。

よね

しかもスクリーンの大きさが映画館並みのシアターで上映するんでしょ？

ひぐ

そう。ベビーカーのままだでもいいし、抱いてもいいし。毎回泣いたり走りまわったりする子

もいるけれど、それはお互いさまってことで皆たのしんでいるよ。

よね

演劇の場合、目の前で子どもが飽きてたら俳優はすごく辛いけど、映画は変わらずに上映されるから、お母さんが楽しむ趣旨の企画には合うかもしれないね。

しぶ

静かにした方がいい場所もあるけど、声出して良い場所があるのは子どもにとってもいいよね。

ひぐ

そうだね。天気によって来られなかったりするから、定期的に上映をして、いつでも来られる環境作りは大事だよね。

[NPO Community Design](#)

活弁の夕べ～無声映画上映会 『実録忠臣蔵』

忠臣蔵ファンの〈しづ〉を中心に、あれこれ当時に思いを馳せる3人。年末には、色々な世代の人が家族や友達と、こうやって忠臣蔵について語っているのでしょうか。

しづ

忠臣蔵だ！

よね

1928年（昭和3年）の作品だね。マキノ省三は初期の日本映画を代表する監督。

ひぐ

無声映画の活弁つきだね。

よね

65分の忠臣蔵って、短めじゃない？

しづ

そうだね。平均は2時間くらいだと思う！

ひぐ

何日か連続でドラマを放送したりもするよね。

よね

私、長すぎてちゃんと観たことない…。

しづ

ようは、あだ討ちの物語だよね。そのあだ討ちの計画部分がすごく長いのが特徴。

ひぐ

たしか数年越しの物語だよね。表面では駄目な男のフリをして、裏で計画を進めたり。

しづ

そう！どの人物を中心に描いてあるかを見るのも、忠臣蔵の楽しみ方だよね。

よね

たしかに、47人もいれば、色々な人がいるだろうね。学校のひとクラス分だもんね。

しづ

その家族模様とか、色々なことが描かれるの。浅野長矩（あさのながのり）さんはすごい良い人だから、いろんな人が集まってきたんだよ。またその辺のエピソードも泣けるし、そのための決死のあだ討ちには「ああ、こんな歴史があったんだ」と思って、ぐっとくるんだよねえ。

ひぐ

本当に昔から歌舞伎や文楽や、小説や映画…。すごい数の作品化だよね。

よね

不思議だね。みんなが好きなんだよね。討ち入りの翌年には、既に歌舞伎で上演されているみたいだよ。歴史の勉強するためなら、こんなに沢山の作品が次から次に生まれないだろう

から、皆が47人のそれぞれに肩入れして楽しんできたのかな。

しぶ

そうそう、たしか他の藩の人とかも手伝っていた。浅野さんが良い人だから。

よね

歴史は、全てが正確に資料として残っているわけじゃなくて、謎が多いのもいいのかもね。

ひぐ

女性の弁士が忠臣蔵を語るのは、どんな感じだろう？

よね

ラーリ・グリーンバーグ氏の解説も気になるね。日本映画に造詣が深く、海外に日本映画を紹介している方みたい。海外の人は、『忠臣蔵』の物語は、どう感じるんだろう？

しぶ

意味わかんないかもね。

よね

アメリカ映画とかだと、法廷物とか多いじゃない？無実の罪をきせられて、でも最後の最後で無罪が証明されるとか。そういう楽しみ方に近いのかな。

ひぐ

そう思うと、日本映画で法廷物って少ないね。

よね

証拠や真実を探すっていうのは合理的だけど、それとあだ討ちには大きな違いもあるよね。

しぶ

最後は切腹だしね。でもそれをみんな毎年繰り返し観てるんだよね。自国のことながら、不思議だわ。

[株式会社マツダ映画社〈活弁のタベ〉](#)

[株式会社デジタル・ミーム](#)

[公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 古石場文化センター](#)

川口暮らふと『むかしのくらしシアター』上映会レポート

みなさん、教育ビデオっておぼえていますか？小学校の授業で見たおぼえがうっすらとあるだけのそのカテゴリーですが、昔はビデオだけでなく16ミリフィルムでも盛んにつくられていたようです。もちろん今は内容が古くなっていることもあり、あまり見られていないのが現実。そんな財産を有効活用すべく、あるクラフトマーケットの中で上映会を企画しました。

「川口暮らふと」という今年の開催がはじめてのクラフトマーケット。それぞれの作家さんが自分たちのお店を出すのは青空の下でしたが、上映会の会場はそのすぐ横にあるアートギャラリー・アトリアの中です。ギャラリーでは川口市で長年活動をしている職人たちを紹介する「川口の匠」展が開催中でした。その内容とも少しからめてのフィルム（およびVHS）セレクト。そのほとんどが1970年代から1980年代に制作されたものばかり。

クラフトマーケットということもあり、生活や暮らしを垣間みることのできる内容を中心に、海外の様子を記録したフィルムもあり、基本的な生活スタイルのちがいや、その暮らしの中で使われるものなどに注目してもらうために、プログラムにコメントをつけて配布しました。

クラフトマーケットに来た人が観たり、展示を見にきた家族などたくさんの方がじっくりと観たり。足を止める多くの人は、リアルタイムでその映像を観たのかもなあと思わせるような40代の方や、その上の世代の方が多かったです。若い方にも興味を持ってもらえ、とくに小さな子にはまだ内容がむずかしいものもありましたが、映写機でフィルムが回るようすを真剣に見入る子がたくさんいたことが嬉しかったことのひとつ。その音と光をおぼえていてほしいなあと思いました。

「川口暮らふと」も雨で1日延期になりましたが大盛況！当日は表現（hyogen）とPoPoyansという2組が出演した、芝生でのゆったりした野外ライブもあり、いろいろな表情をもったマーケットとなったのでした。

こういった〈むかし〉のカテゴリーでくぐられ、忘れてしまいそうな映像を、もっとさまざまなかたちで楽しめるような方法を見つけないですか。（ひぐ）

〈上映作品〉

『手づくりの生きがい—生活文化の伝承』

『アンデスの人々と生活』

『くらしと商店街』（VHS）

『インドの人々と生活』

『むかしの道具』

『かわってきた人々のくらし』（VHS）

『川口のおいたち』

川口暮らふと

シネマネキ 2011年11月 第5号（抜粋版）

<http://p.booklog.jp/book/38152>

著者：cinemaneki

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cinemaneki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38152>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38152>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.